

授業を聞きながらノートをとること

寒さに震える日もありますが、暦の上ではもう春。当塾も中学生クラスは新学年度を迎えました。年度の初めですので、以前も書きましたが授業の受け方について少し述べてみましょう。「授業をよく聞く」当たり前のことのように、生徒にとって実はこれほど難しいことはありません。先生が黒板などに図表を描いて説明したり、ポイントをまとめて板書すると、多くの生徒はそれをノートにとろうとします。もちろん大切なことであったり、理解を助けるための図表ですから、記録してほしいのですが、この時確実に耳はお留守になります。特に几帳面で真面目な生徒であるほどきちんとしたノートをとろうとしますから、説明を聞いていないことがたまにあります。先生によっては聞く時間とノートを写す時間を別にとってくれることもあります。1分も無駄にしたくない先生の場合、図を描きながら説明し、待つてはくれません。時間にゆとりがあれば前者がいいのですが、残念ながら私は後者の授業をせざるをえません。

2つのことを同時に要求するのですから、集中力のバランスをとることが大切なのです。こうした場合、私はできるだけ「聞くこと」に集中力を残しておくように要求します。聞いたことを頭の中に整理しながら、そのなかで「この図はポイントだ」というものを素早く描き写す、または「この言葉がキーワードだ」というものを書き留める（どちらもメモ程度で構いません）。とにかく“一生懸命”写さないことが大切です。

授業はあくまでもライブ・コンサートであって、その中で「理解」しなければわざわざ授業を受けた意味がないと私は考えます。一生懸命きれいに写したノートであっても、何が書いてあるか全く理解できないのでは意味がありません。第一、ノートをあとから読んだだけで理解できるのなら、初めからそのノートのコピーだけもらえばいいわけで、その先生の授業など聞かなくてもいいことになります。

もちろん知識や理解を定着させるための家庭での復習はしっかりやって欲しいのですが、それでも「まず初めに授業ありき」という一期一会の気持ちで授業に臨んで欲しいと思います。

今年度は中学生も理社国の時間を利用して、できるだけ「聞き取りテスト」を実施したいと思っています。「お話し」を聞きながら的確にメモをとる訓練は、どの学年にとっても必要であると痛切に感じています。